

# 小学校英語教育にドラマをいれる意義

## ドラマワークショップを通しての成長

竹田里香(立命館大学)

キーワード: ドラマ教育, 自律的学習者, 言語活動

### 1. 研究の目的

小学校外国語の教科化により, 検定教科書を用いた授業が始まり4年目になる。内容量もあり, 児童の学習への動機づけに関して苦勞が見受けられる。教科書以外にドラマワークショップを体験することで, どのような変容が児童にあったかをアンケートと振り返りシートのコメントから分析する。教員にはアンケートとインタビューを行い, ドラマ教育を小学校外国語に取り入れる意義を分析する。

### 2. 研究の方法

文化庁の文化芸術による子供育成推進事業育成事業を利用し, 関西圏の3つの公立小学校の4, 5, 6年生が4回から5回のドラマワークショップを受講した。児童には, ドラマワークショップを受ける前後でアンケートを取り, ワークショップごとに, 振り返りシートを書かせた。

事前のアンケートから性別や個性を外部変数としてカテゴリーに分けてHKコーダーによる分析を行った。教員のアンケートやインタビューはKJ法により小学校外国語にドラマ教育を取り入れる意義を分析する。

### 3. 結果

まだ分析途中であるが, 男女差や性格などに関わらずドラマ教育は肯定的に受け入れられていると考えられる。仲間との協力で英語劇を完成させるという達成感と効力感を持ち, 自律的学習者へととなっている。教員からのアンケートとインタビューからは, 普段の授業からは想像できない児童が頑張っている姿がいくつも見られ, またクラス全体を巻き込みLDのある児童の頑張りも多く見れたことから現場でのドラマ教育を取り入れる意義があると推測される。

### 4. 結論

ドラマ教育は, 言語学習的にも有用な点があるが, 教育的にクラス全体を巻き込んで全員が成長をしようとすることで, 自律的学習者となり, 今後の英語学習への動機づけにも寄与するものである。

### 参考文献

- 川喜田二郎 (1997). 『KJ法入門コーステキスト4.0』. KJ法本部・川喜田研究所.  
樋口耕一 (2020). 『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して—(第2版)』. ナカニシヤ出版